

県営馬見丘陵公園の今後の運営について

まちづくり推進局 中和公園事務所 谷口 泰樹

1. はじめに

奈良県営馬見丘陵公園は、「歴史と自然に囲まれた憩いの空間づくり」を目的に、昭和59年より整備に着手し、1991年4月に公園館を含むエリアを開園した。

公園の位置する馬見丘陵は、奈良県香芝市・広陵町・河合町など2市3町に跨る標高70m程度の低い丘陵地で、馬見古墳群の集積地でもある。昭和40年代後半より丘陵西部では真美ヶ丘や西大和ニュータウンなどの大規模宅地開発が始まり、奈良県はこれらの開発から自然や古墳群を保全するため、1984年8月に都市公園（広域公園）として都市計画決定し整備を進めてきた。

2010年には「第27回全国都市緑化ならフェア」のメイン会場となり、多くの方に来園いただき、現在では、ナガレ山古墳をはじめとする馬見古墳群の文化財や、四季折々の花々などを求めて、年間約100万人の人々が訪れる公園となっている。



写真－1 ナガレ山古墳

2. 事業の概要

馬見丘陵公園の沿革について、表－1に示す。

表－1 馬見丘陵公園の沿革

・1984年	8月	都市公園（広域公園）として都市計画決定（最終65.3ha）
・1991年	4月	中央エリア公園館を含む10haを開園
・1994年	10月	北エリア開園（開園面積21.6ha）
・2002年	10月	南エリア開園（開園面積34.7ha）
・2005年	10月	緑道完成（開園面積47.1ha）
・2010年	9月	北エリア完成（開園面積52.6ha）
・2010年	9月	第27回全国都市緑化ならフェアの開催
・2011年	10月	第1回馬見フラワーフェスタ開催
・2012年	6月	公園56.2ha全面開園（ため池を除く）

近年の馬見丘陵公園では、大規模な花修景や自然を活用した、イベントや講習会の開催など、花やみどりに関するソフト事業を展開している。

チューリップシーズンには、関西最大級のチューリップを作付けた「馬見チューリップフェア」を開催し、大型バスによる観光や歴史学習を目的とした小学校の遠足にも利用されている。

また、秋の「馬見フラワーフェスタ」ではシンボル植栽をダリアとし、約100品種1,200株のダリア園などを中心とした催事を行い、「球根生産量全国1位の奈良県」をPRする場となっている。(写真-2)



写真-2 ダリア園

他シーズンには、夏季の花菖蒲やひまわりの見頃に合わせた「馬見花菖蒲まつり」や「馬見ひまわりウィーク」、冬季のイルミネーションイベント「馬見クリスマスウィーク」を実施し、近年のSNS発信等により他府県からも多くの来園をいただいている。

また、講習会としては、チューリップの球根掘り上げ体験や、庭木の手入れ教室、公園の自然や野鳥について学んでいただく講座を行っており、令和5年度には16講座、約220名の参加があった。

2013年度より、公園の花壇管理に関するパークボランティア「馬見丘陵公園花サポーター」の募集を行い、県民協働花壇の運営や花緑ボランティアとして活動を行っている。

「県民協働花壇」はグループ単位で参加し、花壇1区画(約10平方メートル)の植栽の計画から、草花の植付けや花殻取り、除草などの管理作業を行うもので、現在9区画が参加している。「花緑ボランティア」には現在、約50名が参加しており、日常の花壇管理のほか、イベント時のガイドツアー、講習会開催のサポートでも活躍いただいている。

また、奈良県立都市公園緑化基金として、ポストカードを記念品とした募金を実施し、チューリップ球根の購入費等に活用している。

3. 施設の概要

馬見丘陵公園の全体図について、図-1に示す。大きく「緑道エリア」、「北エリア」、「中央エリア」「南エリア」の4つに分けられ、それぞれのエリアやそれらに位置する施設の特徴等は表-2、3に示す。

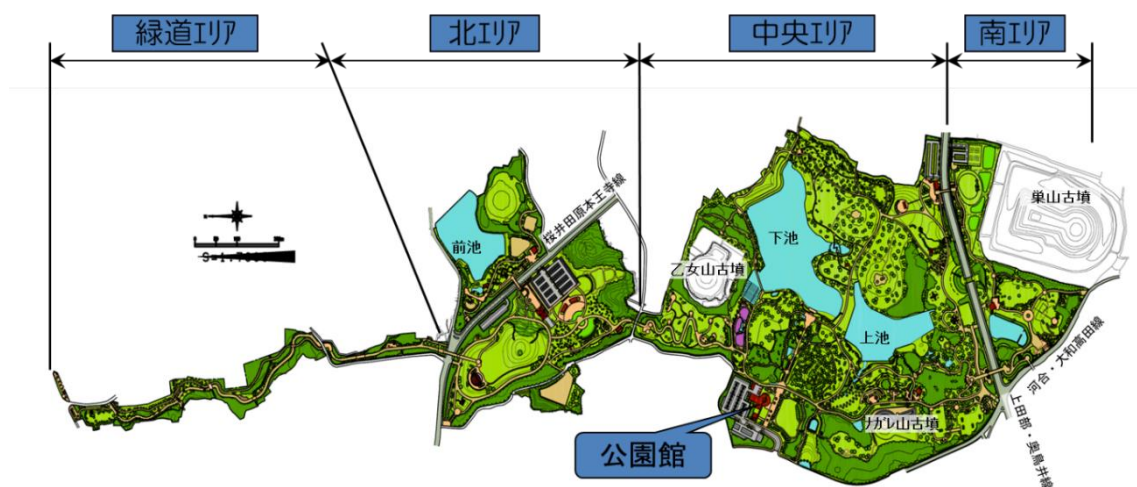


図-1 馬見丘陵公園の配置図

表－2 各エリアの特徴

<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑道 エリア 近鉄池部駅から徒歩でのアプローチルート。 ・ 北 エリア 子どもたちが楽しめる大型遊具や広い芝生広場、イベントができる大型テント、また、花いっぱいの馬見花苑やダリア園などがあるエリア。 ・ 中央 エリア 菖蒲園や花の道など花と緑あふれるエリア。中心の公園館には、古墳と自然の展示。 ・ 南 エリア 馬見古墳群最大の樂山古墳が近接するエリア。
--

表－3 馬見丘陵公園の主要施設

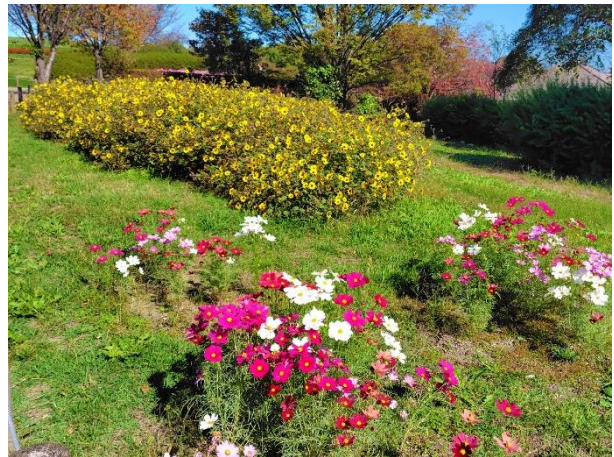
<ul style="list-style-type: none"> ・ 花見茶屋（北エリア） 研修棟 1 棟・飲食棟 1 棟 ・ 大型テント（北エリア） 休憩及びイベントスペース。緑化フェア時には、開閉会式、各種イベント等に使用 ・ 大型遊具施設（北エリア） 平成22年9月全面リニューアル、ロングスライダーなど。 ・ 公園館（中央エリア） 展示室、管理事務所 ・ その他 ダリア園（北エリア）、バラ園（中央エリア）、菖蒲園（中央エリア）など

4. 運営にかかる新たな取り組み

(1) 植栽の見せ方について

馬見丘陵公園では、これまでに春のチューリップをはじめ、夏のひまわり、秋のダリアやコスモスを咲かせるために花壇整備を行ってきたが、近年の物価上昇等の影響もあり、より効率的かつ効果的な植栽管理方法の検討が課題となっている。公園を訪れる人々が花を楽しめる場所として、来園者の満足度を高めつつ、植栽管理の費用対効果を向上させるため、以下の取り組みを行っている。

費用を抑えながらも、これまで通り大規模な花修景や自然を活用したイベントや講習会を実施するため、花の品種選定を見直し、より開花期間が長い品種を採用することで花壇の苗や種の費用削減、地拵えや植付け、撤去作業費の削減を図っている。例えば、ひまわりは、これまで夏のイベントである「馬見ひまわりウィーク」を開催する7月下旬に見頃を迎えるよう6月に播種を行い、開花期間が1週間程度であった。しかし、多花性の品種を使用することで、7月下旬の開花から、11月頃まで見頃が続き、これにより、夏のひまわりの開花が終わった後から秋のダリアやコスモスが見頃を迎えるまでの花が少ない時期を解消することができた。また、ひまわりとコスモスといった、馬見丘陵公園でこれまでになかった花のコラボレーションが実現し、多くの来園者に楽しんでもらえた。(写真－3)



写真－3 ひまわりとコスモス



写真－4 桜とネモフィラ

さらに、春のチューリップの時期には、近年の球根代の高騰や生育不良による全国的な球根不足を受け、今年度はチューリップだけでなく、近年人気の高いネモフィラのための花壇を設けた。ネモフィラは生産が安定しており、

種の費用もチューリップより安価であるが、同時期に開花する桜とネモフィラのピンク色と青色のコントラストが写真映えすることから、多くの来園者が熱心にカメラを向けていた。

(写真-4) 令和6年度の「馬見チューリップフェア」では、9日間で過去最多の約11万人の来園者が訪れた。

(2) イベント実施について

年5回実施しているイベントにおいても、近年の物価や人件費の高騰により、従来通りの費用では同規模のイベントの開催が困難になっている。

そこで、今年度からは従来のステージイベント主体の形式を見直し、イベント名称を変更したうえで、公園に隣接する北葛城郡4町（上牧町・王寺町・広陵町・河合町）と連携し、商工会や地元事業者によるテントやキッチンカーの出店をメインとしたマルシェイベントを実施している。(写真-5)



写真-5 マルシェの様子

出店内容としては、地域の特産品や体験コーナー、情報発信などを盛り込み、イベントを通して地域の活性化を図っている。来園者には、馬見丘陵公園の古墳や季節の花、イルミネーションを楽しみながら、地元の食や体験を堪能してもらえるようなイベントづくりを進めている。

広報面では、従来チラシとポスターを作成し、地元の広報誌へ折り込みを行っていたが、大量のチラシの印刷や折り込み費用がかかることから、デジタルサイネージへの切り替えを進めている。また、馬見丘陵公園の公式HPやSNSに加え、出店していただく北葛城郡4町や商工会、各出店者にも協力を依頼し、関係者SNS等で周知してもらえるように協力を呼びかけている。こうした取り組みには、これまで以上に地元関係者の協力が不可欠であるため、来園者に満足してもらえるイベントを目指すのはもちろんのこと、出店者にも「参加してよかった」と感じてもらえるイベントにするため、ヒアリングや事後アンケートを行い、イベント内容の精査を続けている。

5. おわりに

近年、馬見丘陵公園はレクリエーション需要の充足にとどまらず、求められる機能の多様化が進んでいる。当公園では、アメニティー向上を目的にミストの設置やトイレの洋式化に取り組んでいるほか、高齢者や身体の不自由な方、お子様連れの方などへの移動支援を目的として、2020年度からは花々を楽しみながら快適に移動できる電動カートの運行を開始しており、現在さらに他の移動手段も検討している。

最後に、公式サイト「馬見花だより」および公式インスタグラムで見頃の花やイベント情報を随時発信しているので、ぜひフォローしていただきたい。